

SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度選定

大阪府・大阪市

2022年9月

SDGs未来都市計画名

2025年大阪・関西万博をインパクトとした「SDGs先進都市」の実現に向けて

自治体SDGsモデル事業

大阪発「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進プロジェクト

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

（1）計画タイトル

2025年大阪・関西万博をインパクトとした「SDGs先進都市」の実現に向けて

（2）2030年のあるべき姿

世界は気候変動や環境破壊、グローバル化による格差の拡大など大きな課題を抱えている。大阪でも、人口減少や少子高齢化のなかで、こうした課題に歯止めをかけ、今後、いかに社会を維持していくのか、日々の生活をいかに豊かなものにしていくかが問われている。SDGsを達成する2030年には、こうした課題にひるむことなく、人々が前向きに進んでいる姿が求められる。世界中の人々が知恵を出し合い、これからの世界を共創（Co-Creation）していく場となる大阪・関西万博の開催都市として、大阪らしさを発揮し、世界や日本、そして大阪にとって実りあるものとなるよう、世界中の人々とのつながりの中で、子どもたちをはじめ、すべての府民が明るい未来を感じられる社会となるよう、ローカル、グローバルの両面から、2020年3月に大阪府・大阪市で策定した「万博のインパクトを活かした大阪の将来に向けたビジョン」を踏まえつつ、①いのち輝く幸せな暮らし（Human Well-being）、②多様なチャレンジによる成長（Diverse Innovation）、③世界の未来をともにつくる（Global Co-CreationHub）の3つのあるべき姿を実現していく。

（3）2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール



（4）2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

| No | 指標名 ※口内はゴール・ターゲット番号 | 当初値 | 2021年（現状値） | 2030年（目標値） | 達成度（%） |
|----|---------------------------------------|------------------------------|---|--|--------|
| 1 | 雇用創出数【1.2, 8.5, 9.2】 | 2010年から2019年までの年平均 5.2 万人 | 2021年 -1 万人 | 2022年から2025年、年平均 ※2022年2月に就業者数をコロナ前の水準に戻す 万人（以上） | - |
| 2 | 健康寿命(男性)【3.8】 | 2016年 71.5 歳 | 2019年 71.88 歳 ※本統計データは3年ごとの更新。 | 2023年度 計画策定時の値から2歳以上延伸（※計画策定期：2013年）：70.46歳 | 71.0% |
| | 健康寿命(女性)【3.8】 | 2016年 74.46 歳 | 2019年 74.78 歳 ※本統計データは3年ごとの更新。 | 2023年度 計画策定時の値から2歳以上延伸※計画策定期（2013年）：72.29歳 | 114.0% |
| 3 | 「全国学力・学習状況調査」における小学6年生の平均正答率（国A）【4.3】 | 2017年4月 72.1 % ※全国：74.8% | 2021年 63.2 % ※全国：64.7% ※現在のテストでは「国A」「国B」という区分なし | 2022年度 全国水準の達成・維持 | 97.7% |
| | 「全国学力・学習状況調査」における小学6年生の平均正答率（国B）【4.3】 | 2017年4月 54.5 % ※全国：57.5% | 2021年 63.2 % ※全国：64.7% ※現在のテストでは「国A」「国B」という区分なし | 2022年度 全国水準の達成・維持 | 97.7% |
| | 「全国学力・学習状況調査」における小学6年生の平均正答率（算A）【4.3】 | 2017年4月 77.8 % ※全国：78.6% | 2021年 69.7 % ※全国：70.2% ※現在のテストでは「算A」「算B」という区分なし | 2022年度 全国水準の達成・維持 | 99.3% |
| | 「全国学力・学習状況調査」における小学6年生の平均正答率（算B）【4.3】 | 2017年4月 44.6 % ※全国：45.9% | 2021年 69.7 % | 2022年度 全国水準の達成・維持 | 99.3% |

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

| No | 指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号 | 当初値 | 2021年（現状値） | 2030年（目標値） | 達成度 （%） |
|----|---------------------------------------|---|--|--------------------------------|------------|
| 3 | 「全国学力・学習状況調査」における小学6年生の平均正答率(国)【4.3】 | 2019年4月 (平均正答率の対全国比) 0.91 (58%/63.8%) | 2021年 (平均正答率の対全国比) 0.97 (63%/64.7%) | 2021年度 (平均正答率の対全国比) 0.96 | 101.0% |
| | 「全国学力・学習状況調査」における小学6年生の平均正答率(算)【4.3】 | 2019年4月 (平均正答率の対全国比) 0.98 (65%/66.6%) | 2021年 (平均正答率の対全国比) 0.98 (69%/70.2%) | 2021年度 (平均正答率の対全国比) 0.99 | 99.0% |
| | 「全国学力・学習状況調査」における中学3年生の平均正答率(国A)【4.3】 | 2017年4月 75.3 % ※全国：77.4% | 2021年 62 % ※全国 64.6% ※現在のテストでは「国A」「国B」という区分なし | 2022年度 全国水準の達成・維持 | 96.0% |
| | 「全国学力・学習状況調査」における中学3年生の平均正答率(国B)【4.3】 | 2017年4月 69.1 % ※全国：72.2% | 2021年 62 % ※全国 64.6% ※現在のテストでは「国A」「国B」という区分なし | 2022年度 全国水準の達成・維持 | 96.0% |
| | 「全国学力・学習状況調査」における中学3年生の平均正答率(数A)【4.3】 | 2017年4月 63.7 % ※全国：64.6% | 2021年 55.5 % ※全国 57.2% ※現在のテストでは「数A」「数B」という区分なし | 2022年度 全国水準の達成・維持 | 97.0% |
| | 「全国学力・学習状況調査」における中学3年生の平均正答率(数B)【4.3】 | 2017年4月 46.3 % ※全国：48.1% | 2021年 55.5 % ※全国 57.2% ※現在のテストでは「数A」「数B」という区分なし | 2022年度 全国水準の達成・維持 | 97.0% |
| | 「全国学力・学習状況調査」における中学3年生の平均正答率(国)【4.3】 | 2019年4月 (平均正答率の対全国比) 0.96 (70%/72.8%) | 2021年 (平均正答率の対全国比) 0.94 (61%/64.6%) | 2021年度 (平均正答率の対全国比) 0.97 | 96.9% |
| | 「全国学力・学習状況調査」における中学3年生の平均正答率(数)【4.3】 | 2019年4月 (平均正答率の対全国比) 0.95 (57%/59.8%) | 2021年 (平均正答率の対全国比) 0.96 (55%/57.2%) | 2021年度 (平均正答率の対全国比) 0.96 | 100.0% |

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

| No | 指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号 | 当初値 | 2021年（現状値） | 2030年（目標値） | 達成度（%） |
|----|--|-----------------------|---|------------------------------|--------|
| 4 | 温室効果ガス排出量【12.2、12.4,12.5,13.1,13.2,13.3】 | 2013年度 5623万 t-CO2 | 2019年度 4284 万t-CO2 (2013年度比約23.8%減少) ※データは2年遅れで公表 | 2030年度 比で40%削減 | 59.5% |
| 5 | 容器包装プラスチックの排出量【12.2,12.4,12.5】 | 2019年度 24 万 t | 2020年度 23 万 t ※データは1年遅れで公表 | 2025年度 21 万 t | 33.3% |
| | 容器包装プラスチックの再生利用率【12.2,12.4,12.5】 | 2019年度 27 % | 2020年度 30 % ※データは1年遅れで公表 | 2025年度 50 % | 13.0% |
| | 容器包装プラスチック焼却量【12.2,12.4,12.5】 | 2019年度 48 万 t | 2019年度 48 万 t ※本統計データは5年ごとの更新。 | 2025年度 36 万 t | — |
| | 容器包装プラスチック有効利用率【12.2,12.4,12.5】 | 2019年度 88 % | 2019年度 88 % ※本統計データは5年ごとの更新。 | 2025年度 94 % | — |
| 6 | 大阪湾に流入するプラスチックごみ量【14.1, 14.2】 | 2021年度推計値 62.8 t(暫定値) | 2021年度 62.8 t(暫定値) | 2030年度 大阪湾に流入するプラスチックごみの量を半減 | — |

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

○2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

<経済> 雇用創出について、2021年の就業者数は459.5万人であり、前年度から1.0万人減少したものの、コロナ前の水準（2019年）は上回っている。引き続き、今後の推移を注視しながら、失業者に対する早期の再就職支援や、企業に対して、テレワークなど多様な働き方の導入を促し、コロナ禍で影響を受けている非正規雇用者や女性、高齢者、若者等の就業機会の拡大等に引き続き取り組んでいく。

<環境> 大阪湾に流入するプラスチックごみ量については、府市が2021年3月に策定した「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン実行計画」に沿って進捗を管理。

○「情報発信・普及啓発」

SDGsに対する府民の認識・理解の促進、自律的取組みの拡大を図るため、経済界や企業、大学等と連携し、SDGsに関する講演・講義や各種イベント通じたPR活動のほか、市町村・民間企業とタイアップしたポスター発行や電車広告の掲出、広報誌の発行等、幅広く情報発信・普及啓発を行った。【学校での講義（6大学、1高校、1中学、1小学校）、企業・団体での講義等（8回）、シンポジウム等での講演（4）、イベント会場でのPR（4回）等】

○「ステークホルダーとの連携」

府内においてSDGsの取組みを先導する自治体、経済団体、国の関係機関及び金融機関などの協力関係の強化と会員間の連携促進や地域の特性にあわせた取組みの推進につなげることを目的に設立した大阪SDGsネットワークにおいて、参加団体のSDGsに対するさらなる理解促進に取り組むため大阪SDGsネットワーク勉強会を開催した（R3/12/16開催）。【大阪SDGsネットワーク参加団体数：府内自治体（41市町村）、経済団体（23団体）、国の関係機関（1機関）、金融機関（18社）※2022年3月末時点】

○「地方創生・地域活性化への貢献」

府民、企業・団体に自らが行うSDGsに資する取組みを宣言する「私のSDGs宣言プロジェクト」を各種セミナー、イベント等で積極的にPRし、プロジェクト参加者の拡大に取り組んだ。【参加者数：1,813（うち企業・団体：149）※2022年3月末時点】

また、宣言プロジェクトに参加した企業と、庁内関係課や府内市町村等との連携にも取り組み、地方創生・地域活性化を図った。【大阪府と宣言企業との連携3件、府内市町村と宣言企業の連携：2件】

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

| No | 取組名 | 指標名 | 当初値 | 2020年実績 | 2021年実績 | 2022年実績 | 2022年目標値 | 達成度(%) |
|----|--|--------------------|-------------------------|--|--|---------|------------------------------|--------|
| 1 | 大阪ええまちプロジェクト（地域の支え合いと高齢者の活躍の場の創出） | 支援件数 | 2017～2020年度 72件（累計） | 2020年 19件 | 2021年 13件 | | 毎年度 15件 | 86.7% |
| 2 | | 支援団体活動紹介WEBページ閲覧者数 | 2020年度 5.7万人 | 2020年 5.7万人 | 2021年 5.7万人 | | 前年度数値の維持又は増 | 100.0% |
| 3 | | 支援団体活動紹介WEBページ閲覧回数 | 2020年度 7.6万回 | 2020年 7.6万回 | 2021年 7.7万回 | | 前年度数値の維持又は増 | 100.0% |
| 4 | 健康寿命の延伸 | 健康寿命 | 2013年 男性 70.46歳 | 2016年 71.50歳 | 2019年 71.88歳 <small>※本統計データは3年ごとの更新。</small> | | 計画策定時（2013年）の値から2歳以上延伸 | 71.0% |
| 5 | | | 2013年 女性 72.49歳 | 2016年 74.46歳 | 2019年 74.78歳 <small>※本統計データは3年ごとの更新。</small> | | 計画策定時（2013年）の値から2歳以上延伸 | 114.5% |
| 6 | 府立学校等のスマートスクール化に向けた取組み | 府立高校への一人一台端末の配備 | - | 2020年 - ※2021年度予算で府立高校への一人一台端末の配備を実施予定 | 2021年 100% | | 2021年度中に100% | 100.0% |
| 7 | 海洋プラスチックや気候変動の問題解決に向けた環境技術イノベーションの戦略的な促進と普及に向けた取組み | 温室効果ガス排出量 | 2013年度 5,623万t-CO2 | 2018年度 4,512万t-CO2 | 2019年度 4,284万t-CO2 | | 2030年度に2013年度比で40%削減 | 59.5% |
| 8 | | 大阪湾に流入するプラスチックごみ量 | 2021年度推計値 62.8t（暫定値） | 2020年度 - | 2021年度 62.8t（暫定値） | | 2030年度大阪湾に流入するプラスチックごみの量を半減 | - |
| 9 | 食品ロス削減対策の推進 | 食品ロスの量 | 2000年度 65.4万t | 2019年度 43.1万t | 2019年 43.1万t <small>※次回は2025年に調査実施</small> | | 2030年度に事業系家庭系ともに2000年度比で50%減 | 68.2% |

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

府民、企業・団体に自らが行うSDGsに資する取組を宣言する「私のSDGs宣言プロジェクト」を各種セミナー、イベント等で積極的にPRし、プロジェクト参加者の拡大に取り組み、2021年度末までに累計1,813件の「私のSDGs宣言」をエントリーいただいている。宣言内容を府ホームページ等で紹介することにより、これからSDGsに取り組もうとする府民、企業・団体にもSDGsの取組の輪を広げ、オール大阪でSDGsの達成をめざす機運の醸成につなげていく。

また、SDGsビジネスの支援として、SDGsビジネスに挑戦する企業とOSAKA SDGs共創パートナーとのマッチングイベント「OSAKA SDGsビジネスマッチング」を3回開催。SDGsビジネスに挑戦する企業30社とサポーター28社が参加し18件のマッチングが成立した。今後も経済界や金融機関等と連携し、府内事業者のSDGsビジネスの取組を支援していく。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- ・ええまちプロジェクトの支援件数については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、支援を希望する団体が減少。
- ・健康寿命の延伸については、順調に推移。
- ・府立高校への一人一台端末の配備については、2021年度に目標を達成。
- ・（再掲）大阪湾に流入するプラスチックごみ量については、府市が2021年3月に策定した「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン実行計画」に沿って進捗を管理。
- ・食品ロス削減対策の推進については、順調に推移。

(4) 有識者からの取組に対する評価

- ・「OSAKA SDGsビジネスマッチング」の取組は、着実に実績を重ねつつあり、評価できる。今後の活動目標をKPIとして、この計画の中で位置付けていくことも一案であると思料する。
- ・使用済ペットボトルの回収行動の目標値を流通量を用いて計測しようとしているが、そもそも発生量を削減することにより廃棄物発生量を出来るだけ削減し、環境中に流入していくことを抑制していこうとすることが究極の目標であることから、この観点からKPIの設定の仕方そのものを見直していくことも一案である。
- ・全体計画の評価指標はマクロな水準指標であり、ブルーオーシャン等の取組の具体的な達成が見えにくく、行動指標の検討も必要だと思料する。

2. 自治体SDGsモデル事業

(1) モデル事業名

自治体SDGsモデル事業名：大阪発「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進プロジェクト

(2) モデル事業の概要

プラスチックごみ問題への対応で世界を先導する取組として、3 Rなどの普及啓発や技術シーズ・実態調査、海ごみの回収などに府域全体で幅広く取り組みながら、それらの成果が集約された具体的な行動の一つとして、「地域・事業者の連携による新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」を確立する。

(3) 三側面ごとの取組の達成状況

| 取組名 | 取組内容 | 指標名 | 当初値 | 2020年実績 | 2021年実績 | 2022年実績 | 2022年目標値 | 達成度(%) |
|--|---|------------------------|----------------|----------------|----------------|---------|----------------|--------|
| 【経済】 ①-1 海洋プラスチック問題等の解決に向けた環境先進技術シーズ調査普及啓発事業 ①-2 バイオプラスチックビジネス等推進事業 ①-3 国際環境計画国際環境技術センター（UNEP-IETC）との連携事業 ①-4 水・環境技術の海外プロモーション事業 | プラスチックごみゼロ等の実現をめざし、今後10年の技術の普及見込みを踏まえた、2050年までの環境先進技術シーズの現状と課題、国内外のニーズ等を調査した。 【事業費】 16,189千円 プラスチック製品等の研究開発を支援するため、「バイオプラスチックビジネス等推進事業補助金」により府内企業3社に対し、必要な経費の一部を助成した。 【事業費】 5,648千円 UNEP-IETCと連携した国際ワークショップを実施した。 【事業費】 25,436千円 TeamOsakaの企業と環境関連会議を実施し、JCM等の国の支援制度を活用した案件を実現した。 【事業費】 2,459千円 | 国際的な環境イベントや環境関連会議の実施件数 | 2019年度 7 件 | 2020年度 13 件 | 2021年度 19 件 | | 2022年度 25 件 | 66.7% |
| 【社会】 ②-1 マイボトル・マイ容器等の普及促進（プラスチック対策推進事業） ②-2 公共空間における給水スポット設置事業 ②-3 大阪湾の環境改善と府民の環境意識向上 ②-4 環境問題に取り組む若者の育成 ②-5 資源集団回収活動によるコミュニティビジネスの振興 | 様々な主体が参画するおおさかマイボトルパートナーズにおいて、マイボトルの利用啓発や給水スポットの設置を行った。また、マイ容器・マイボトルを使える店等の検索サイト「Osakaほかさんマップ」を開発するとともに、イベント等でマイ容器、マイバッグの携帯について啓発を実施した。 【事業費】 5,594千円 マイボトルの利用啓発に取り組んでいる団体等と連携し、市内各所の給水スポットを当局HPで紹介するなど、市民の方々に広く紹介し、マイボトルで水道水を飲むという環境にやさしいライフスタイルへの転換を啓発・勧奨するための情報発信を行う。 【事業費】 10,386千円 鉄道会社と連携したエコウォークツアーや、大阪湾の魅力や海洋プラスチックごみ問題を分かりやすく学べる動画「ハッピー・オオサカ・ベイベース」を作成した。 【事業費】 7,125千円 学生エコチャレンジミーティングを開催し、報告会を行った（1回）。 【事業費】 833千円 古紙・衣類のコミュニティ回収活動団体を109地域から113地域へ拡大した。 【事業費】 115,572千円 | 使用済みペットボトルの流通量 | 2018年度 7,194 t | 2020年度 7,311 t | 2021年度 7,369 t | | 2022年度 7,855 t | 26.5% |

2. 自治体SDGsモデル事業

| 取組名 | 取組内容 | 指標名 | 当初値 | 2020年実績 | 2021年実績 | 2022年実績 | 2022年目標値 | 達成度(%) | |
|--|--|-----------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|---------|--------------|--------|-------|
| 【環境】 ③-1 海洋プラスチック問題等の解決に向けた環境先進技術シーズ調査普及啓発事業【再掲】 ③-2 大阪湾におけるマイクロプラスチック、海岸漂着ごみの実態調査 ③-3 大阪湾の海ごみの回収事業 ③-4 ごみの減量と3Rの啓発推進事業 ③-5 小・中学校での「おおさか環境科」の実施 | 港湾の清掃業務で回収したごみや河川敷の散乱ごみ等について、9月から12月にかけて、府内10箇所でごみ組成調査を実施した。 【事業費】 2,750千円 | ペットボトルの分別排出率の向上、焼却に伴う温室効果ガスの排出の削減 | 2018年度 | 86% | 2020年度 | 88% | 2022年度 | 94% | 25.0% |
| | 漁業者や港湾管理者と連携し、海岸に漂着したごみや、大阪湾を漂流するプラスチックごみの回収を行った。 【事業費】 25,844千円 | | (▲458t-CO2) ⇒ペットボトル ▲165t 分相当 | (▲458t-CO2) ⇒ペットボトル ▲165t 分相当 | (▲1,831t-CO2) ⇒ペットボトル ▲661t 分相当 | | | | |
| | 引き続き、SNS（環境局3Rツイッター、フェイスブック、LINE）を活用し、ごみ減量施策等の情報発信を行った。 【事業費】 531千円 | 大阪湾に流入するプラスチックごみ量 | 2021年度推計値 | 62.8 t (暫定値) | - | 2021年度 | 62.8 t (暫定値) | - | |
| | 大阪の環境の特色を踏まえた内容で構成する副読本及び視聴覚教材を作成し、授業での活用を図った。 【事業費】 4,457千円 | | 2030年度 | 大阪湾に流入するプラスチックごみの量を半減 | - | | | | |

(4) 「三側面ごとの取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

【社会】に関する指標「使用済みペットボトルの流通量（回収量）」は、行政回収（6,717 t）＋地域回収（652 t）≒7,369 tとなり、前年度から微増にとどまっている。その理由としては、2020年度から大阪市内のペットボトル総排出量が減少しており、この変動が流通量（回収量）に大きく関係していると考えられる。

また、【環境】に関する指標「ペットボトルの分別排出率の向上、焼却に伴う温室効果ガスの排出の削減」については、分別排出率・温室効果ガス排出量ともに横ばい状態である。これは、新型コロナウイルス感染症予防策として、感染した方やその疑いのある方などがあるご家庭から排出されるペットボトル等については、焼却工場に搬入する普通ごみとして出すよう呼び掛けていることが影響していると考えられる。

2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

(1) 三側面をつなぐ統合的取組名

統合的取組の事業名：「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進事業

(2) 三側面をつなぐ統合的取組の概要

「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の実現に向けて大阪府・市が一体となって取り組む計画の取りまとめと推進体制の構築、国内外への成果の発信、また、自治体SDGsモデル事業全体の取組成果を象徴的に体現する事業として「地域・事業者の連携による新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」の取組を展開していく。

(3) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果

| 経済⇔環境 | 経済⇔社会 | 社会⇔環境 |
|--|--|--|
| <p>経済面における環境ビジネスの活性化等が環境面へ相乗効果をもたらす点について、指標とする『「新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」によるペットボトル回収量』は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により緩やかな増加となった。一方、本システムをPRする地域説明会への参加者の反応は概ね好意的であり、更なる実施地域拡大・回収量増加、ひいては資源循環を通じた温室効果ガスの排出削減をはじめとする相乗効果が期待できる。</p> | <p>経済面におけるコミュニティビジネスの振興等が社会面へ相乗効果をもたらす点について、指標とする『「新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」により地域が得る財源』は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により緩やかな増加となったが、住民の本システムへの関心は高く、今後は更なる財源の増加等が見込める。これにより、地域経済の振興を通じた地域活性化をはじめとする相乗効果が期待できる。</p> | <p>社会面における環境保全をはじめとする地域活動等が環境面へ相乗効果をもたらす点について、指標とする『河川魚類の在来種数の維持』等は、2022年度中に調査が完了する予定である。指標達成に向けては、水質保全の取組に加えて、出前講座等の市民参加型イベントを通じた地域における環境保全活動の担い手の増加に努めている。これにより、地域活動の活性化を通じた、自律的な環境配慮行動の広がりが期待できる。</p> |
| <p>環境面における企業との連携等が経済面へ相乗効果をもたらす点について、指標とする『海外向け環境技術の提示』は、オンライン会議等を活用したところ昨年度に比べて大きく件数を伸ばした。今後、大阪の「環境先進都市」実現に向けた取組を国内外にPRすること等により環境ビジネスの活性化をはじめとする相乗効果が期待できる。</p> | <p>社会面における地域・企業の社会貢献意識の高まり等が経済面へ相乗効果をもたらす点について、指標とする『海外の環境問題の解決に資する新規プロジェクトの創出件数』は、オンライン会議等を活用したところ昨年度に比べて大きく進捗した。昨今、企業の環境分野への関心は高く、引き続き創出件数増加等が見込める。これにより、環境ビジネスの活性化をはじめとする相乗効果が期待できる。</p> | <p>環境面における環境問題への関心の高まり等が社会面へ相乗効果をもたらす点について、指標とする『「新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」に取り込む地域数』は、当初の予定より遅れているものの着実に拡大しており、今後も更なる拡大が見込める。これにより、環境保全活動を通じた地域活性化をはじめとする相乗効果が期待できる。</p> |

(4) 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況

| No | 指標名 | 当初値 | 2020年実績 | 2021年実績 | 2022年実績 | 2022年目標値 | 達成度(%) |
|----|--|---------------------------|-----------------------------|-------------------------------|---------|--------------------------------|--------|
| 1 | 【経済→環境】 「地域・事業者の連携による新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」によるペットボトル回収量 | 2018年度 0 t | 2020年度 162 t (半年度) | 2021年度 652 t (半年度) | | 2022年度 3,378 t (半年度) | 19.3% |
| 2 | 【環境→経済】 産学官連携組織参加事業者による海外向け環境技術等の提示 | 2019年度 15 件 | 2020年度 21 件 (累計) | 2021年度 32 件 | | 2022年度 45 件 (累計) | 56.7% |
| | 【環境→経済】 (公財)日本容器包装リサイクル協会におけるペットボトル登録再資源化事業者(近畿圏) | 2020年3月 2 社 | 2020年度 2 社 (累計) | 2021年度 3 社 (累計) | | 2022年度 4 社 (累計) | 50.0% |
| 3 | 【経済→社会】 「地域・事業者の連携による新たなペットボトル回収・リサイクル」により地域が得る財源 | 2019年度 75 千円/年 (推計) | 2020年度 762 千円/年 (半年度) | 2021年度 3,205 千円/年 (半年度) | | 2022年度 36,605 千円/年 (半年度) | 8.6% |
| 4 | 【社会→経済】 海外の環境問題の解決に資する新規プロジェクトの創出件数 | 2019年度 2 件 | 2020年度 2 件 (半年度) | 2021年度 5 件 | | 2022年度 6 件 (半年度) | 75.0% |
| 5 | 【社会→環境】 河川の魚類調査で確認されている在来種数 | 2017年度 46 種 | 2020年度 2022年度調査実施 | 2021年度 2022年度調査実施 | | 2022年度 46 種 (半年度) | — |
| | 【社会→環境】 河川の魚類調査で「きれいな水質の指標種」の確認地点 | 2017年度 10 地点 | 2020年度 2022年度調査実施 | 2021年度 2022年度調査実施 | | 2022年度 15 地点 (半年度) | — |
| 6 | 【環境→社会】 「地域・事業者の連携による新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」に取り込む地域の数 | 2020年3月 3 地域 | 2020年度 49 地域 | 2021年度 79 地域 | | 2022年度 164 地域 (累計) | 47.2% |

2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

(5) 自律的好循環の形成に向けた取組状況

自治体SDGsモデル事業の中核的取組である「地域・事業者の連携による新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」では、府域全体での自律循環モデルとして広がっていくことを視野に入れ、まずは、大阪市内の全328地域での実施をめざし、SDGs未来都市計画においては2022年度にその半分である164地域まで拡大することを目標としている。

大阪市では、本システムを運営する環境局と、住民に最も身近な区役所が緊密に連携して地域に働きかけを行い、実施地域の拡大を図ることを通じて、広く市民が環境への配慮をきっかけとしてSDGsを理解し日常的に実践する状態をめざしている。

今般の事業は、一部の公的支援により、事業者と地域コミュニティによる自律的なペットボトルの回収・リサイクルシステムのプラットフォーム確立をめざしたものであるが、今後は、事業者が設備投資を行うに当たり、大阪府が金融機関、大阪信用保証協会と連携して運営する制度融資「SDGs ビジネス支援資金」などを活用し支援していく。

(6) 「三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

「地域・事業者の連携による新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたことで、地域において本システム実施に係る合意形成を図る会合等の開催が制約されたため、大阪市としても地域への働きかけを当初の予定より遅らせざるを得ない状況となった。

このような状況により、2021年度は本システムに取り組む地域の拡大が、目標（49地域から98地域へ拡大）を下回る79地域への拡大に止まったことに加え、大阪市内のペットボトル総排出量が減少したことも影響し、「ペットボトルの回収量」「地域が得る財源」についても低調となった。

「河川魚類の在来種数の維持」等に関する調査は、2022年度中に完了する予定。

(7) 有識者からの取組に対する評価

・「ペットボトル回収・リサイクル」の取組では、府域全体としてのモデルを広げていくとの考え方で、広域的な対応に取り組んでおり評価できる。

・海洋プラスチック問題の解決についての、ニーズ等の調査、具体的な技術開発支援、国際会議の開催等はそれぞれ独立して評価の枠組みと目標を設定するべきだと思料する。